

193. うんこブーム到来？

技術戦略部 次長兼技術開発企画課長 橋本敏一

去る 8 月 6 日から 9 日にパシフィコ横浜で開催されました下水道展では、私も半日でしたが、JS ブースで対応をさせて頂きました。多数の皆様は JS ブースにも足をお運び頂きまして、誠にありがとうございました。

さて、日本下水道協会の発表によりますと、4 日間の来場者数は 46,659 人で、このうち KIDS（子供）の来場者数は 2,147 人だったとのこと。パブリックゾーンを中心に子供が楽しく参加できるクイズラリーやゲーム、展示等が多数あり、小学 3 年生になるわが家の息子は、お菓子やノベルティグッズもたくさん頂戴し、大満足の様子でした。

ここで、横浜つながりと言うことで、今年の 3 月から 7 月にかけて、横浜で「うんこミュージアム」というイベントが開催され、オープンと同時に入場制限がかかるほどの大人気であったことを、皆様はご存じだったでしょうか。私は残念ながら期間中に訪れる機会がなく、SNS やまとめサイトで紹介されている記事や写真を見ただけなのですが、うんこをテーマにしたエンターテインメント施設ということで、インスタ映えするカラフルなデザインのうんこ達のフォトスポットや、うんこをテーマとしたゲームなどがあり、子供連れだけでなく、女性やカップル、外国人にも人気だったそうです。公式サイトによれば、「この世に誕生した瞬間に流されて消えていく、とても儚い運命の存在」であるうんこを見て、触って、撮って、遊んで楽しむというコンセプトのようなのですが、流されて消えていくのが当たり前という感覚が少し残念に思えるのは私だけでしょうか。消えたうんこはどこ行き、その後、どんな運命をたどるのか、「うんこの運命は儚くないぞ！」と思った次第です。ちなみに 8 月からは、東京お台場で開催されているようですので、ご興味を持たれましたら足をお運びください。

つぎに、うんこつながりと言うことで、「うんこドリル」はご存じでしょうか？ 書店で見かけられた、あるいは、小学生以下のお子さんがいらっしゃるご家庭では持っているという方も少なくないかも知れません（ちなみにわが家では使っていませんが）。「うんこドリル」と言っても、下水道の勉強をするためのドリルではもちろんありません。最初は低学年の漢字ドリルから始まり、今では算数やひらがな、カタカナ等、様々なドリルがあるようで、これまでにシリーズ累計で 400 万部の売り上げということです。下水道展のパブリックゾーンのイベントでも、うんこ先生（うんこドリルに出てくるメインキャラ）の漢字ドリル教室が催され、多数の子供たちが参加しているのを見ました。出版元のホームページによれば、このドリルのコンセプトは、子供たちにとっては口にすることで楽しくなる魔法の言葉である「うんこ」の魅力を活用し、勉強を楽しいものに、勉強が好きになるようにするということだそうです。なぜ子供はうんこが好きなのか？永遠の 5 歳の女の子のキャラクターが人気の国営放送の某番組によれば、「うんこを自分の子供だと思っている

から」だそうです。うんこドリルのように「うんこ」という言葉をもっと活かして広報すれば、自分の子供=分身であるうんこはトイレで流されるとどうなるのか？多くの子供たちが自分のこととして、下水道に興味を示してくれるのではないかなと思いましたが、いかがでしょう。

9月10日の下水道の日の前後には、全国で多数のイベントが予定されていることと思います。最近のうんこブーム？に便乗すれば、盛り上がること間違いなしです!?

最後になりますが、文章中「うんこ」を乱発しまして、大変申し訳ございませんでした。